

日本鉄鋼協会記事

編 集 委 員 会

鋼 管 部 会

第 1 回和文会誌分科会 開催日: 3月6日. 出席者: 田中主査, ほか 14 名.

1. 25 件の論文審査報告がなされ, 掲載決定 14 件, 修正依頼 2 件, その他 9 件であった.
2. 「鉄と鋼」第 67 年第 9 号 (7 月号) に論文 10 件, 技術報告 1 件掲載決定した.

第 1 回欧文会誌分科会 開催日: 3月17日. 出席者: 中村主査, ほか 7 名.

1. 10 件の論文につき審査報告がなされ, 照会后掲載可 7 件, 修正依頼 3 件であった.
2. 「鉄と鋼」より 2 件の Review, 「鉄と鋼」以外の国内雑誌より 1 件の研究論文, 及び第 101 回講演大会討論会より 9 件の研究論文を勧誘することとなった.

共 同 研 究 会

第 2 回運営委員会 開催日: 1月19日. 出席者: 武田会長, ほか 25 名.

1. 昭和 55 年度第 2 回共研総務幹事会議事報告
2. 昭和 55 年度上半期共研予算使用状況報告
3. 昭和 56 年度共同研究会予算

部会分科会	20,661,600 円
小委員会	4,256,000 円
共通運営費	7,761,600 円
総計	32,679,200 円

4. 鉄鋼協会入会の勧誘

協会では現在, 新会員増を大きな課題としている. 協会メイン部門の 1 つが共同研究会であることから, その活動を支えている関係者各位に協会へ入会される様, 勧誘がなされた.

5. 部会長の交替方式
6. 出版物「鉄鋼熱計算用数値」の内容改定

圧 延 理 論 部 会

第 68 回部会 開催日: 3月9日~10日. 出席者: 岡本部会長, ほか 118 名.

開催地: 鋼管・本社

本部会は圧延理論に関する研究を自由に発表して討論を行つている. 第 68 回部会の研究発表をまとめると内容は以下のとおりである.

1. 全般..... 1 件
2. 厚板..... 4 件
3. 熱延..... 7 件
4. 冷延..... 7 件
5. 鋼管・形鋼..... 2 件

なお本部会は鉄鋼メーカーのみならず大学・圧延設備・電気計装メーカーも参加して発表が行われている.

第 28 回継目無鋼管分科会 開催日: 3月5日~6日 出席者: 望月主査, ほか延べ 100 名.

鋼管・本社で開催された.

1. 第 1 日 熱間押出関係
 - (1) 共通議題「主要設備の作業管理について」
 - (2) 共通議題「潤滑処理について」
 この 2 件のテーマについて, アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が行われた.
2. 第 2 日 マンネスマン関係
 - (1) 共通議題「NDI の現状と将来の展望」
 アンケート調査結果のまとめ発表と質疑応答が行われた.
 - (2) 自由議題「矯正技術について」
 アンケート結果とそのまとめの発表, 質疑応答が行われた.

また両日共工場操業状況についての報告が行われた.

第 28 回溶接鋼管分科会 開催日: 3月12日~13日. 出席者: 大日方主査, ほか延べ 129 名.

住金・大阪本社で開催された.

1. 第 1 日 電縫・鍛接管関係
 次の 2 件の共通議題につき, アンケートのまとめ発表と討議が行われた.
 - (1) 「省エネルギーについて—エネルギー原単位向上の取り組み—」(鍛接管)
 - (2) 「溶接部品質と検査について」(電縫管)
2. 第 2 日 電弧溶接管関係
 次の 2 件の共通議題について, アンケートのまとめ発表と討議が行われた.
 - (1) 「最近の UOE 工場操業状況について」(ストレートシーム)
 - (2) 「二次加工品のハンドリングと保管について」(スパイラル)
 さらに, 両日共工場操業状況についての報告ならびに質疑が行われた.

特 定 基 礎 研 究 会

スラグの有効利用に関する基礎研究部会

第 14 回部会 開催日: 2月2日. 出席者: 松下部会長, ほか 20 名.

1. 開催地: 鋼管・京浜
2. 議事概要
 - (1) 研究報告書まとめの方針検討
 - (2) 研究発表

高炉 W.G.	2 件
転炉 W.G.	3 件
有効利用 W.G.	1 件

標 準 化 委 員 会

整合性調査特別委員会

第2回本委員会 開催日：1月8日。出席者：田中委員長，ほか31名。

1. 整合性調査基本方針について
2. 各分科会の問題点及び報告事項
3. JIS G 0560, 0561 改正案の概要審議

第3回薄板調査分科会 開催日：11月20日。出席者：三佐尾主査，ほか9名。
評価判定の統一のため，

1. 主要規定項目の評価優先区分
2. 外的障害，内的障害
3. 総合評価
4. 規定数値の差異判定

以上の原則を確認し，これにしたがってB表を再整理する。

第4回薄板調査分科会 開催日：12月12日。出席者：三佐尾主査，ほか11名。

1. 整理案を検討し，A表作成にあつての問題点についての考え方を整理した。

- (1) 規格体系について
- (2) 規定項目の過不足と規定値の整合化について

2. 今回で当分科会の実質審議を終了し，主査にて作成したA表(案)を書面審議にかける。

第4回鋼管調査分科会 開催日：12月25日。出席者：丸岡主査，ほか10名。

1. 鋼管の標準寸法・重量及びその許容差についてのISOとの整合性判断メモ及び鋼管調査分科会報告書案について

2. A表及びB表について

第5回鋼管調査分科会 開催日：2月2日。出席者：丸岡主査，ほか9名。

1. [A表]整合性調査結果の総括(案)の検討
2. 整合性調査結果報告書(案)の検討

第4回鋼質試験調査分科会 開催日：1月28日。出席者：石川主査，ほか11名。

1. 整合性調査結果の総括(A表)についての説明
2. B表の一部修正について
3. 整合性調査結果報告書(案)について
4. JIS改正原案について

第4回特殊鋼調査分科会 開催日：1月19日。出席者：光島主査，ほか14名。

1. 各JISの整合性調査結果[B表]の再確認。
2. [A表]整合性調査結果の総括表の確認。
3. 整合性調査結果報告書(調査結果の概要文)の確認。
4. 今回をもつて，当分科会の実質的検討作業は終了した。

第4回総括調査分科会 開催日：12月23日。出席者：小倉主査，ほか13名。

1. 整合性の考え方について
2. 整合性調査及びJIS改正の基本方針について
3. C表の統一様式について

第5回総括調査分科会 開催日：1月14日。出席者：小倉主査，ほか11名。

1. 各分科会から問題点の提起及び分科会調査結果の報告書の概要についての説明
2. 各分科会の評価に関する統一

3. 報告書のまとめ方

ISO鉄鋼部会

第3回SC1事務局運営委員会 開催日：1月16日。出席者：狐崎委員長，ほか15名。

1. 下記事項について報告が行われた。
 - (1) 国際会議1982年5月東京開催を支持してほしいとの手紙を発送した。
 - (2) 次回国際会議場として経団連会館を仮予約した。
 - (3) SC1活動運営指針の幹事提案原案が作成された。
 - (4) 第2回諮問分科会の活動内容。
 - (5) 事務局活動状況の統計資料。

2. 昭和56年度SC1事務局予算案の決定が行われた。その他
次回ヨーロッパ訪問予定は2月21日から3月8日までであるとの報告があつた。

第3回SC1諮問分科会 開催日：1月30日。出席者：川村主査，ほか11名。

1. 下記案件について審議が行われた。SC1分科会関係
DP 4829, DP 4935, DP 4939,
DP 4938, DP 4937, DP 4943
2. 下記事項について報告が行われた。
 - (1) SC1事務局定例報告
 - (a) Procedures for Activities of ISO/TC17/SC1の作成。
 - (b) 第9回国際会議1982年5月東京開催を支持してほしいとの手紙を発送。
 - (c) Report of the Activities of ISO/TC17/SC1作成。
 - (2) SC1運営規程
Procedures for Activities of ISO/TC17/SC1第三次案作成

その他

第2回事務局訪欧計画報告。

第13回SC2分科会 開催日：1月28日。出席者：水野主査，ほか9名。

1. 第23回統一システム委員会出席報告。
大浦委員(川鉄)から報告書に基づき，詳細な報告が行われた。
2. 鋼管，軌条等の新72類への移行について。
3. DIS 4948/1.2の審議のやり方について。

第14回SC2分科会 開催日：3月3日。出席者：水野主査，ほか8名。

1. CCGN高強度鋼の定義。鉄連の新井氏より，第23回HSCで宿題となつた高強度鋼の定義については，本年5月の第25回HSCで審議される旨，報告があつた。したがって，3月20日を目標に当分科会の意見をまとめて，事務局に提出できるようにする。

2. DIS 4948/1.2回答について。CCGNに整合させることを条件に，賛成することになった。

第15回SC2分科会 開催日：3月12日。出席者：水野主査，ほか7名。

CCCN 非合金鋼高強度鋼の定義について

1. 各国の高強度鋼の規格
2. みがき帯鋼のハード材
3. 定義について

第 14 回 EC 分科会 開催日: 1 月 20 日. 出席者: 小倉主査, ほか 7 名.

1. 第 4 回 TC17/EC 会議出席報告
日本代表として上記会議に出席した丸岡委員から詳細な報告が行われた.
2. Implementation Form について
DIS, 5 年見直し投票用紙の内容について検討を行ったが, これらの目的からみて, この用紙でも特に問題は無いとの結論に達した.

データシート部会

第 20 回高温引張データシート分科会幹事会
開催日: 1 月 12 日. 出席者: 横井主査, ほか 10 名.

1. 電気協会での Sy 値の再検討の件について

第 66 回普通鋼分科会 開催日: 12 月 11 日. 出席者: 小倉主査, ほか 8 名.

1. 80 キロハイテン
2. SPV, SLA 板厚拡大
3. サブサイズシャルピテストピース
4. その他

第 67 回普通鋼分科会 開催日: 1 月 22 日. 出席者: 小倉主査, ほか 11 名.

1. 80 キロハイテン
2. IACS/Z Plate
3. JMC/UST
4. 56 年度業務計画
5. 普通鋼分科会活動概要

第 80 回鋼管分科会 開催日: 12 月 2 日. 出席者: 丸岡主査, ほか 14 名.

1. 自動車構造用鋼管規格について自工会との検討状況の説明
2. シリンダー用鋼管規格について原案の検討状況の説明
3. SAW 鋼管溶接部の NDI について品質管理部会 NDI 小委での取りまとめ状況についての報告
4. 石油工業配管用アーケ溶接鋼管規格について石油学会での検討状況の報告
5. 鋼管 JIS における伸び値の低減率についての統一見解の確認

第 81 回鋼管分科会 開催日: 12 月 25 日. 出席者: 丸岡主査, ほか 11 名.

1. 前回分科会において伸びの低減率について階段方式を採用することになったが, ASTM を調査してみた結果, ASTM が比率的な考えでいることが判明したので, この問題について再検討した.

第 9 回日ソ油井用鋼管分科会 開催日: 1 月 8 日. 出席者: 丸岡主査, ほか 8 名.

1. ソ連専門家チームの来日対策
 - (1) ソ連専門家チーム来訪について
 - (2) 受け入れについて
 - (3) 今後の進め方について

第 10 回日ソ油井用鋼管分科会 開催日: 1 月 19 日. 出席者: 丸岡主査, ほか 5 名.

1. GOST 633, 632 の各社作業分担
2. 調査事項について

高温強度研究委員会

第 9 回高温クリープ・疲労試験分科会

開催日: 1 月 19 日. 出席者: 大谷主査, ほか 19 名.
SUS 304 鋼の高温低サイクル疲労に関する共同研究結果報告書の取りまとめにつき審議が行われた.

1. その後の共通試験結果について
前回の分科会以降に提出された共通試験結果が主査の手元で取りまとめられ, その概要が資料をもとに主査より説明が行われた. この検討結果ののうち(1)応力保持法によつて $\Delta \epsilon_{ij}$ を分割する場合, どの時間のクリープ速度 $\dot{\epsilon}$ をとるか. (2) $\Delta \epsilon_{cp}/\Delta \epsilon_{in}$ と $\Delta \epsilon_{cc}/\Delta \epsilon_{in}$ の間に差があるかどうか, また急速変形挿入法と応力保持法の試験結果の間に差があるかどうかの問題点につき検討することとなった.

2. 共同研究のまとめについて

本共同研究の結果を報告書として今年度中にまとめることとし, 報告書は目次概要にしたがつて主査がまとめ, これを小委員会で検討ののち 3 月または 4 月開催予定の次期分科会に報告することが申し合わされた.

第 14 回高温熱疲労試験分科会 開催日: 1 月 20 日. 出席者: 雑賀主査, ほか 20 名.

前回に引き続き Alloy 800 文献整理結果の報告を中心議題として会議が行われた.

1. Alloy 800 文献整理結果のデータシート報告について
 - (1) 総合的に関するもの: 7 件, (2) 引張り関係: 5 件, (3) クリープ関係: 2 件, (4) 疲労関係: 3 件, (5) 腐食関係: 7 件, 計 24 件について 12 機関よりそれぞれ報告があつた.
2. 文献整理結果の取りまとめ幹事について
整理カードの項目別に取りまとめ幹事をお願いするため, 委員の希望を聴取したが重複するものが多いので幹事にその選出が一任された.
3. 文献整理データ分類方法 (記号) 案について
幹事案, ①材料名, ②分類, ③現象, ④環境因子, ⑤材料因子について審議ののち③, ④, ⑤につき追加する要素があれば早急に幹事まで申し出ることとなった.

第 3 回クリープ強度外挿法分科会

開催日: 2 月 6 日. 出席者: 藤田主査, ほか 17 名.

前回に引き続いて, 割り当て文献の要約発表が 4 機関

より次の順序で行われた。

- ① 高温用合金に対するクリープ破壊クライテリア (W. U. CHAMBERS, W. J. OSTERGREN, J. H. WOOD)
- ② 結晶体の高温機械的性質を現すための現象学と物理学の結合 (O. D. SHERBY, A. K. MILLER)
- ③ 高温クリープのひずみ速度式 (P. P. PIZZO)
- ④ An Analytical Representation of The Creep and Creep-Rupture Behavior of Alloy 800H¹ (M. K. BOOKER)

ついで追加文献3件が新しく3機関に割り当てられた。

2) 共同研究「クリープ破断データのあてはめ性と外挿法の比較」(案)について

本件が幹事より提案され、「クリープ破断データの外挿法に関する共通の基盤を確認するために標準的なクリープ破断を用いて、round-robin 的に各委員(各社)がデータ整理を行い、その方法と結果を報告し比較検討する。」目的のため持ち帰り検討することとなった。

鉄鋼標準試料委員会

第6回常任委員会 開催日：2月20日。出席者：大槻(新日鉄)幹事，ほか10名。

1. 標準値の決定
2. 素材製造に関する件
3. 強靱鋼および肌焼鋼シリーズ機器分析用標準試料の統合
4. 年間活動報告
5. 鋼中炭化物抽出定量用標準試料の頒布
6. その他

ISO/TC17 事務局運営委員会

第8回専門諮問部会 開催日：2月6日。出席者：青木部会長，ほか15名。
下記事項について報告・質疑応答が行われた。

1. 事務局定例業務
2. 昭和56年度事務局運営方針
目標：DIS Revised Text 提出3ヶ月以内
サブ目標：規格案件の各段階遅れゼロ
3. 昭和55年度事業報告および56年度事業計画
4. CCC/HSC/WP 会議出席報告
TC17 事務局の活動，決定事項，主要論点のほか，条約(法律)と規格とを合致させる必要性について言及された。
5. TC5 問題および SC19 活発策
PLACO 議長に TC17 コメントを提出したこと，また，SC19 Secretary からの業務計画問い合わせに対する返事など。
6. 事務局よりの検討依頼事項
依頼事項9件各々の取り扱いが決定した。なお，SC19 活発化のため，TAG/WG 3 が設立された。

第7回運営委員会 開催日：2月6日。出席者：狐崎委員長代理，ほか15名。
下記事項について報告・審議が行われた。

1. 昭和56年度事務局目標

DIS Revised Text 提出3ヶ月以内
(サブ目標：規格案件の各段階遅れゼロ)

2. CCC/HSC Working Party 出席報告
会議の目的，TC17 の立場，主要論点等のほか，GA-TT Standards Code との関連で ISO 規格との整合性について言及された。
3. 次回 TC17 総会会場 (57年10月25日の週，東京) 経団連会館で開催することが諒解された。
4. 下記事項が承認された。
(a) 昭和55年度事業報告および56年度事業計画
(b) 昭和55年度収支決算および56年度収支予算

鉄鋼基礎共同研究会

融体精錬反応部会

第3回部会 開催日：1月26日。出席者：森一美部会長，ほか26名。

1. 研究発表
 - (1) MgO 飽和 CaO·MgO·FeO_x·SiO₂ 系スラグ-溶鉄間のPの分配
 - (2) 脱燐反応速度の研究上の2, 3の問題点。
 - (3) 炭酸ナトリウムおよびシリカ混合物の熱または炭素による分解反応。
 - (4) 石灰系フラックスによる溶銑の脱燐，脱硫処理方式の開発。
 - (5) Li₂CO₃ による Cr 溶銑の脱P
 - (6) 底吹転炉を利用した生石灰による溶銑予備処理法
 - (7) 溶銑予備処理におけるインジェクション・メタラジーの精錬特性について
 - (8) 石灰系フラックスのインジェクションによる溶銑の脱リン・脱硫
 - (9) 石灰系フラックスによる溶鋼・溶銑の脱P能におよぼすアルカリ金属化合物添加の影響。以上の9資料が発表され，各委員による活発な討議がおこなわれた。

高温変形部会

第18回部会 開催日：2月16日。出席者：田村部会長，ほか28名。

1. 講演
 - (1) Fe-33Ni オーステナイト粗大結晶の高温圧縮変形
 - (2) Si-Mn 鋼および Nb 鋼の高温変形応力におよぼす変形条件の影響
 - (3) Fe-Ni-C 系合金の熱間加工による組織と性質の改善
 - (4) Ni 基超耐熱合金の熱間加工性
 - (5) オーステナイト系ステンレス鋼の高温変形と加熱挙動
2. 協議事項
 - (1) 56年度の活動は部会(講演)はおこなわず編集委員会のみとする。
 - (2) 57年2月に最終部会としてシンポジウムを開催

する。

3. シンポジウム

翌2月17日、経団連ホールにて当部会主催のシンポジウムが開催された。14名の講師により「高温変形と高温破壊」に関する講演が行われ、約200名の聴講者があり盛況のうちに終了した。

.....

鉄鋼材料の摩耗部会

第7回部会 開催日：1月23日。出席者：木村部会長ほか27名。

1. 場所：本会会議室

2. 研究発表

- (1) VCロールの開発とスリーブの摩耗について
- (2) 熱間仕上後段作動ロールの摩耗に対する考察
- (3) 熱間圧延摩耗試験機におけるロール摩耗
- (4) 複合鋳造ロール

3. 協議事項

- (1) ロール摩耗に関するアンケートのとりまとめの方針と今後の予定
- (2) スラリ-摩耗に関する部会の方針について

新刊紹介

「わが国におけるコールドストリップ設備仕様と工場レイアウト」

日本鉄鋼協会共同研究会・鋼板部会コールドストリップ分科会 編

このたびコールドストリップ分科会では昭和52年発刊の特別報告書「わが国における最近のコールドストリップ設備および製造技術の進歩」のうち、附表 設備仕様一覧表と附図 工場レイアウト図を独立させ見直しを行ない、新たに改訂版を刊行することになりました。

冷延技術者はもちろん、設備技術者など広く薄板に関係があり、興味をお持ちの方々にも役立つものでございますので、座右の書として皆様に広く御利用頂きますようお願い致します。

1. 内 容

I. 設備仕様

1. 酸洗設備：酸洗設備，戻酸処理設備
2. 冷間圧延設備：タンデムミル，レバースミル
3. 清浄設備
4. 焼鈍設備：シングルスタックコイル焼鈍炉，マルチプルスタックタイトコイル焼鈍炉，オープンコイル焼鈍炉，UAD，連続焼鈍
5. 調質圧延設備
6. 精整設備：リコイルングライン，スリッター，コイル準備機，剪断ライン，レベラー，テンションレベラー
7. ロールショップ
ロールグラインダー，ショットブラスター

II. 工場レイアウト

2. 価 格 2500 円(会員価格) [非会員価格：3200 円] 送料別
3. 申込方法 書名，部数，送付先を明記のうえ，代金を添えて現金書留にてお申込み下さい。
4. 申 込 先 〒100 千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階
日本鉄鋼協会庶務課 (TEL 03-279-6021)